

展覧会の概要

展覧会名 | 特別展示・調査報告

再考《少女と白鳥》 贋作を持つ美術館で贋作について考える

会期 | 第1期 2025年9月13日(土)～25日(木)

第2期 2025年10月4日(土)～19日(日)

※展示内容は1期と2期ともに同じです。※第79回高知県美術展覧会(主催:高知新聞社、RKC高知放送)の展示・設営期間にあたるため、9月26日～10月3日まで、美術館の主催展覧会(本展と石元泰博・コレクション展)はご覧いただけません。

開館時間 | 9:00～17:00(最終入場は16:30まで)

10月4日(土)は夜間開館デー。本展と石元泰博・コレクション展を19:00まで開場いたします。

会場 | 高知県立美術館 展示室A

観覧料 | 一般400(320)円・大学生280(220円)・高校生以下無料

※本展の観覧券で、開催中の主催展覧会(石元泰博・コレクション展)もご覧いただけます。※第79回高知県美術展覧会(主催:高知新聞社、RKC高知放送 会期:10月4日～19日)は、本展とは別料金です。※()内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催 | 高知県立美術館(公益財団法人高知県文化財団)

監修 | 田口かおり(京都大学)

助成 | 公益財団法人花王芸術・科学財団

協力 | 森絵画保存修復工房、株式会社堀場テクノサービス、阿部善也(東京電機大学)、村串まどか(明治大学)

2024年、高知県立美術館がドイツ人画家ハインリヒ・カンペンドクの油彩画として所蔵する《少女と白鳥》に贋作疑惑が浮上しました。当館は、京都大学准教授・田口かおり氏と協力して本作の科学分析調査を行い、来歴や証拠資料なども含めて総合的に検討した結果、この作品が贋作であるとの結論に至りました。

本展では、《少女と白鳥》を公開し、購入・収蔵の経緯や実施した科学分析の内容もあわせて紹介することで、様々な角度から本作について「再考」します。科学的な手法で美術品の技法材料を明らかにすることは、真贋鑑定に資するだけでなく、従来の鑑賞とは異なる視点から作品と向き合うことにもつながるはずです。

昨今も相次ぐ贋作発覚のニュースは、世界各地の学芸員や美術史家、画商、コレクター、鑑定機関を悩ませ続けています。当然ながら、恣意的な贋作の制作と流通は犯罪であり、作品の所蔵者だけでなく、作者とされていたアーティストの名誉をも深く傷つけます。しかし、専門家の眼をかいくぐって歴史の表舞台に登場してしまった贋作の物語は、人々の関心を引いてやみません。さらに、1996年

に購入してから事件が発覚するまでの28年間、皮肉にも《少女と白鳥》が人々に「カンペンドクノ作品」として親しまれてきたことも事実です。

芸術の価値とは果たしてどのようなものなのか、作品を「真作」足らしめる要素をいかに定義しうるのか、そして美術館は真贋をめぐる問題にいかに対峙すべきなのか——。贋作を収蔵してしまった美術館として、今後同じ過ちを繰り返さないためにも、本展を通して芸術分野における「贋作／偽物と真作／本物」をめぐる諸問題に光をあて、議論の場を生み出すことを目指します。

高知県民の皆さまはもちろん、事件の報道をきっかけに《少女と白鳥》を知った多くの方々にも、この機会にご来場いただければ幸いです。

関連イベント

① サタデーレクチャー「《少女と白鳥》を視る」

本展監修者の田口かおり氏にお話いただきます。

日時 | 9月13日（土）13:00～14:00

会場 | 1階 講義室

登壇者 | 田口かおり（修復家・京都大学准教授）

参加費 | 無料

定員 | 50名

申込方法 | 8月10日（日）10:00よりお電話（088-866-8000 / 10:00～17:00）および Google フォームにて受付開始。定員に達し次第、受付を終了します。お申し込みは一度につき1名様分のみ承ります。連名でのお申し込みはご遠慮ください。



② 担当学芸員によるギャラリートーク

日時 | 9月23日（火・祝）、10月4日（土）いずれも13:30～

会場 | 2階 本展会場（展示室A）

参加費 | 無料（要観覧券・事前申込不要）

③ シンポジウム「美術館と贋作問題」（共催：京都大学大学院人間・環境学研究科附属学術越境センター）

美術館における贋作の扱いやそれにまつわる法的・倫理的な問題、展示や調査のあり方などを多角的に検討するシンポジウムを開催します。

日時 | 10月19日（日）13:00～16:15

- 会場** | 1階 展示室 D
- 登壇者** | 安田篤生（当館館長）、田口かおり（修復家・京都大学准教授）、山梨俊夫（元・国立国際美術館館長、一般社団法人全国美術館会議事務局長）、照井 勝（弁護士、弁護士知財ネット理事）
- 参加費** | 無料
- 定員** | 100名
- 申込方法** | 9月10日（水）10:00よりお電話（088-866-8000 / 10:00～17:00）および Google フォームにて受付開始。定員に達し次第、受付を終了します。お申し込みは一度につき1名様分のみ承ります。連名でのお申し込みはご遠慮ください。



これまでの経緯

1996年

高知県立美術館が、油彩画《少女と白鳥》をドイツ人画家ハインリヒ・カンペンドンクによる1919年の作として18,000,000円で購入

2024年6月

《少女と白鳥》に、贋作者ヴォルフガング・ベルトラッキによる贋作の疑いがあることが発覚（翌月に公表）

7月

当該作品の購入先に対する購入ルート等の聞き取り

8月

ドイツ・ベルリン州警察より美術館にヴォルフガング・ベルトラッキの贋作についての情報提供

10月

9月県議会 危機管理文化厚生委員会にて報告

11月

美術館が京都大学准教授 田口かおり氏の調査チームに依頼し、作品の基礎調査および科学分析調査を開始

2025年2月

分析成果について、県および美術館に経過が報告される。美術館長等による記者会見を実施

3月

田口氏からの報告書および証拠資料全体に基づく検討の結果、県および美術館は《少女と白鳥》を贋作と判断し、発表

本展について**◆章構成（予定）**

※出品作品はすべて高知県立美術館蔵。総出品点数は10点程度を予定しています。

第1章 贋作の歴史

「贋作」とは、金銭的利益の追求や自己顕示などを目的に、意図的に他者の名を騙って第三者が制作した作品を指します。本章では、古今東西の主な贋作事件を取り上げ、贋作にまつわる歴史を年表形式のパネル展示でご覧いただきます。

第2章 真作？それとも？——作品の外側から分かること

当館では作品収集に際して、多くの場合、目視による熟覧調査や来歴調査に基づいて作者の同定を行ってきました。しかし基準作が少ない画家の作として伝わるものや、同じ図像や作風を広く継承している流派の画家による無記名の作品などについては、その判断を保留せざるを得ないケースも存在します。本章では、高知県立美術館の古美術の収集事例を通して、著名な画家の真作と「そうでないもの」の線引きの難しさについて考えます。

◆ 主な出品作品

中山高陽《伝 郭子儀図（福星図）》1778年
絵金派《加賀見山旧錦絵》制作年不詳

第3章 《少女と白鳥》を視る

ベルリン州警察からの情報提供、京都大学の田口かおり氏が率いる調査チームの協力のもとで実施した科学調査の結果、文献資料や贋作者本人の発言など、複数の根拠を総合的に検討した結果、当館は《少女と白鳥》を贋作者ヴォルフガング・ベルトラッキによる贋作であると判断するに至りました。

本章では、1919年作とされていた《少女と白鳥》がその年代に制作されたものではないと判断するまでに行った科学調査の詳細を、実作品と資料とともに紹介します。さらに当館は、美術・法律・科学といった複数の分野の専門家に、今回の贋作事件にまつわる質問を投げかけました。ここではそれぞれの回答をパネルで掲示し、来場者に多角的に贋作について考える機会をつくります。

◆ 出品作品

ハインリヒ・カンペドックを詐称したヴォルフガング・ベルトラッキ《少女と白鳥》1990年代、高知県立美術館蔵

第4章 絵画の内側を視る

1919年の作とされていた《少女と白鳥》は、調査の結果、おそらく1990年代

に制作された絵画であることが明らかとなりました。では、実際に 20 世紀初頭に描かれた「真作」の絵画と《少女と白鳥》との間には、素材・技法の点でどのような違いがあるのでしょうか。

当館と田口かおり氏の調査チームは、本展のために、当館の西洋美術コレクションから、マルク・シャガール、マックス・ペヒシュタイン、ワシリー・カンディンスキー、パウル・クレーによって 20 世紀初頭に描かれた油彩画の科学調査を新たに行いました。

本章ではそれらの作品の調査結果の紹介を通じて、視覚的には同じ色に見えても、実際には異なる成分の絵具が使われていることや、画家たちが使用する絵具が、時代や流通状況によって変化することを提示します。同時に、科学的な視点から作品を見て、考えることの意義についても言及します。

◆ 主な出品作品

マルク・シャガール 《空を駆けるロバ》 1910 年

マックス・ペヒシュタイン 《森で》 1919 年

ワシリー・カンディンスキー 《「ファウスト」第Ⅱ部アーリエルの場》 1908 年

パウル・クレー 《故郷》 1929 年

▼ 広報用画像

・ご希望の画像の番号（1～3）をお知らせください。下記の注意事項をご確認のうえ、趣旨をご理解いただいた上でご掲載ください。

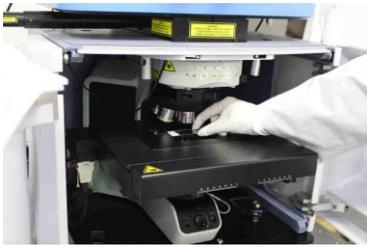
- ・ご掲載の際には、必ず下記の太字キャプションもご掲載ください。
- ・掲載時には、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
- ・掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、若干部ご恵与ください。



【広報用画像 1】

ハインリヒ・カンペンドクを詐称したヴォルフガング・ベルトラッキ 《少女と白鳥》 1990 年代、高知県立美術館蔵

※ 本作は、ヴォルフガング・ベルトラッキがハインリヒ・カンペンドクの名を詐称して制作・流通させた贋作であると当館が判断した作品です。このため、著作権上および倫理上の配慮から、当館では本作の画像を公式広報媒体（ウェブサイト・チラシ等）には使用しておりません。ただし、社会的関心の高い事案であることを踏まえ、報道機関による著作権法第 32 条に基づく「引用」利用に限り、当館としてその使用に異議を唱えない方針です。なお、利用内容によっては画像提供をお断りする場合もございますので、あらかじめご了承ください。

	<p>【広報用画像 2】 作品の分析調査風景 提供：株式会社堀場テクノサービス ©HORIBA</p>
	<p>【広報用画像 3】 作品試料の分析風景 提供：株式会社堀場テクノサービス ©HORIBA</p>

【お問合せ先】

本展には多数のお問い合わせが予想されます。つきまして、メディア関係者の皆様には可能な限り、まずはメールでのご連絡をお願い申し上げます。

高知県立美術館（高知県高知市高須 353-2）

学芸課 展覧会担当 塚本麻莉、中谷有里

問い合わせ先メールアドレス：mari_tsukamoto@kochi-bunkazaidan.or.jp（塚本）